

### 海上工事技術者の資格と教育について

平成24年 12月12日

(財)港湾空港建設技術サービスセンター 島田 伊浩

### 本日の構成



- 1.目的と試験内容
- 2.資格の分類
- 3.受験者の推移
- 4. 資格者の年齢構成と県別人数
- 5.九州地方整備局管内の事例
- 6.継続学習
- 7.資格の考察

### 1-1.目的



海上工事は「海」という環境を相手に安全に工事を進める。

通常の施工技術に加え、気象海象の変化への対応や、海上・海中での作業方法に特有の技術を必要とする。



### 1-2. 試験内容



- 1次試験(選択式)と2次試験(面接式)
- 1次試験は共通分野と専門分野の問題について各25間を回答する。
- 2次試験では、事前に経験論文を提出し、経歴書・経験論文にもとづき、「施工経歴」「総合的施工技術能力」「技術者倫理」を評価する。

### 1-3.資格の位置付け



- ライセンスではなくクオリフィケーション
  - ライセンス: 医師免許、施工管理技士
  - クオリフィケーション:珠算検定、英検

- 専門性の高い分野に特化すること
- 継続学習で教育していくこと

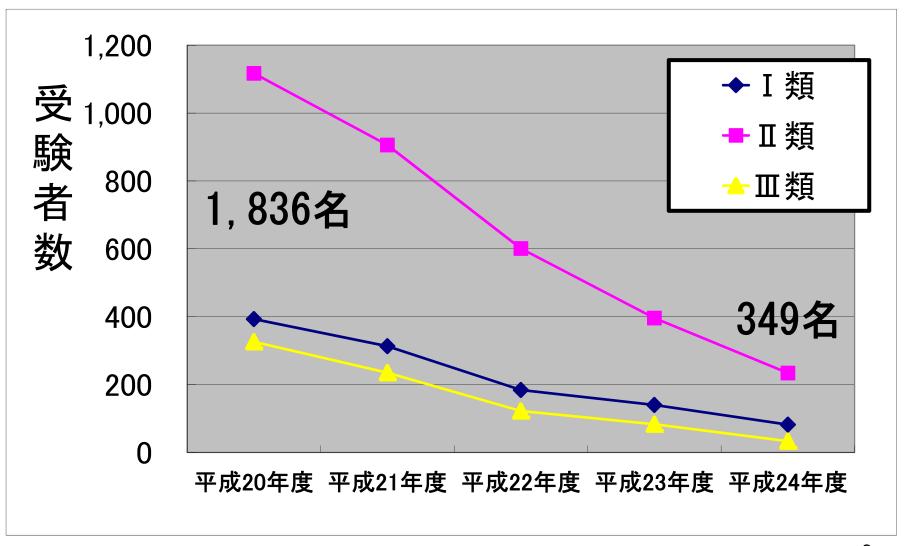
### 2.専門分野の分類





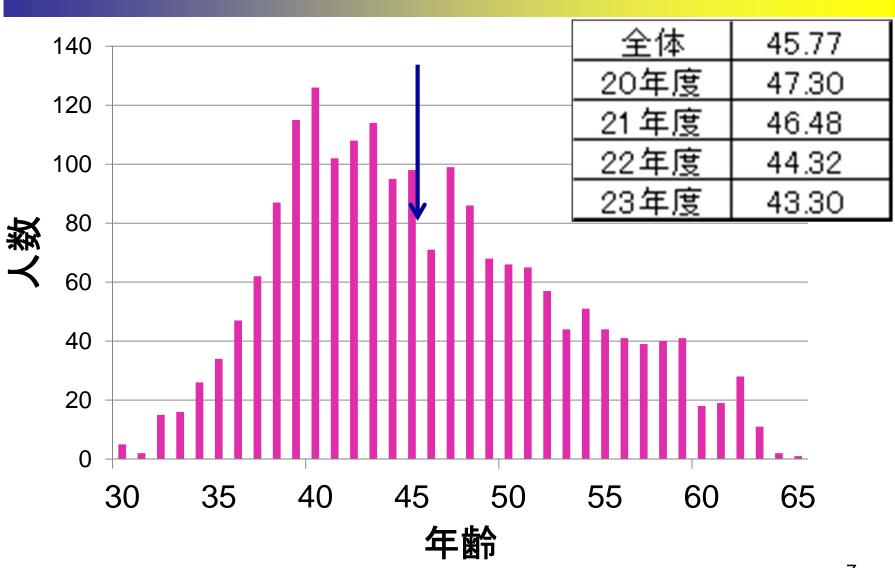
# 3. 受験者数の推移





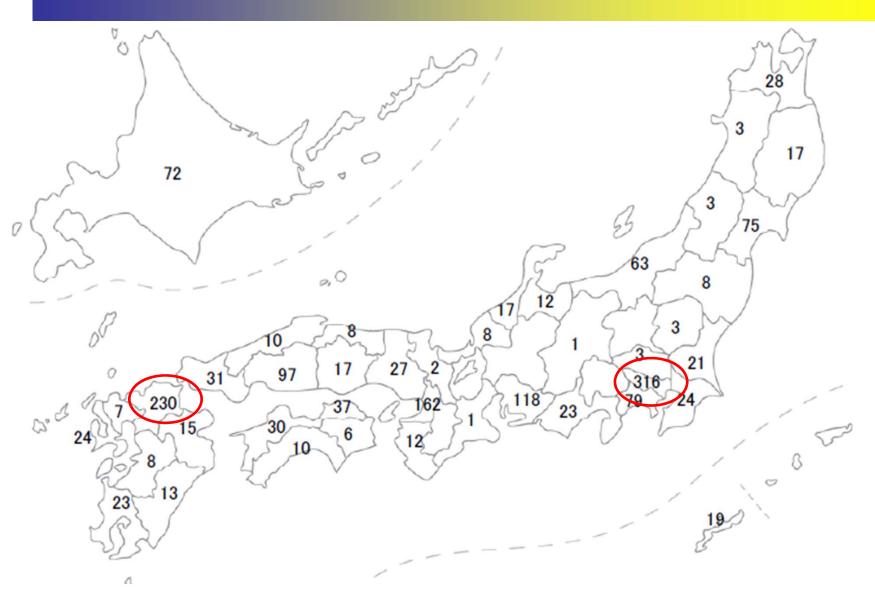
# 4-1.資格者の年齢構成





# 4-2.資格者の県別人数





# 5.九州地方整備局管内での事例



| 配置予定技術者の資格       |      |      |                |  |  |  |  |
|------------------|------|------|----------------|--|--|--|--|
| 評 価 内 容          | 評価段階 | 評価基準 |                |  |  |  |  |
| 工事内容に関連する資格の取得状況 | 3段階  | A評価  |                | 海上工事施工管理技術者(海上における作業船を使用した工事に設定可能)又は<br>技術士(入札説明書5、(6)①に記載して<br>いる部門及び選択科目に限る) |  |  |  |
| 工事的各に因達する負化の取付状況 |      | B評価  | 0.50点<br>1.00点 | その他指定する資格を取得   |  |  |  |
|                  |      | 一評価  | 0.00点          | 資格なし   |  |  |  |

※上段:標準型(I型)の点数

※下段:標準型(Ⅱ型)、簡易型の点数

#### 標準型(Ⅱ型) 加算点満点 50~60点の場合

技術提案 企業 技術者 地域貢献

(通常型)

20~30点 14 10 6

(チャレンジ型)

40~50点 6 4

# 6-1.継続学習



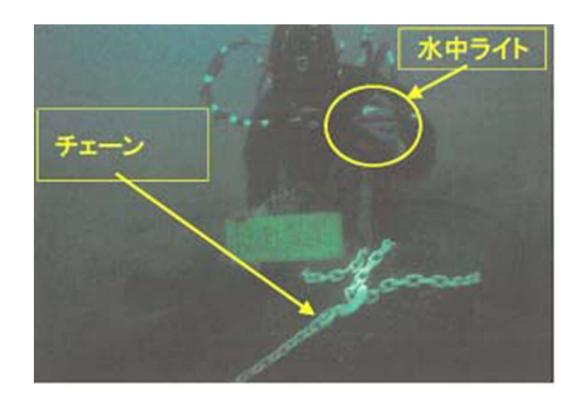
| 種 別 |       |   | 認 定 項 目  |                   | ポイント数                 |
|-----|-------|---|--|-------------------|-----------------------|
| 施   | 施     | 業務  | <ul><li>・日本国内の公共工事、民間工事および外国での海上工事の施工に直接的に</li></ul> | 業務従事期間<br>が6ヶ月超   | 40ポイント                |
| A   | 上   従 | 関わる技術業務の従事者。 ・公共工事の発注者側で監督あるいは<br>検査業務に従事者。 ○認定資格分類の工事は、ポイントは<br>1.5倍 | 同<br>3ヶ月以上<br>6ヶ月未満                                  | 30ポイント            |                       |
|     |       |   | 同<br>3ヶ月未満   | 20ポイント            |                       |
| В   | 施工技   | 施工した工事、業務の報告書の提出  | 提出   | 20ポイント<br>(1件につき) |                       |
| С   |       |   | 「施工技術報告集」への掲載技術的に<br>優れた内容の報告とし、「施工技術報告<br>集」に掲載     | 掲載                | 2 0 ポイント<br>( 1 件につき) |
| D   | 更     | 術   | 条件:5年間で2007  | ペイシト              | 3 0 ポイント<br>( 1 件につき) |
|     |       | #   |  |                   | -                     |

### 6-2.技術の伝承



#### 施工報告書

新規性や学術的内容やオリジナリティを求めない。施工報告事例集の掲載が61件



### 7-1.資格の考察



### ①工種の変化

専門分野や工種の変化についても、柔軟に対応していく必要がある。

### ② 資格の評価

この資格が必要であるという意義を認識してもらう必要がある。

### ③ 技術の伝承

報告書のデータベース化等により、利用者の支援を後押しする全体システム構築が必要となる。

## 7-2.立場と役割(1)



- 資格取得者の役割
  - ① 取得の目的:情報を見極める
  - ② 自己研鑽:取得していない人との差

- 資格利用者の役割
  - ① 利用方法:実績だけでなく、能力判断
  - ② 優位性の確認:継続的に確認

### 7-3.立場と役割(2)



- 資格の運営者の役割
  - ① 公平中立:コンプライアンスの確保
  - ② 内容のブラッシュアップ:技術は日々変化
  - ③情報の発信:広報活動
  - ④ 技術の伝承:情報の蓄積・共有化、DB化
  - ⑤ 技術者の育成:指導的役割、自己研鑽

## ご清聴ありがとうございました。



